

灯 (あかり)

『汗を流して、未来を拓く』

令和5年5月24日(水) 第3号

文責：校長 森下 隆司

小中合同レクリエーション

沖縄はいち早く梅雨入りしたというニュースがありましたが、ここ玉之浦は天気恵まれて、小学生と中学生と一緒にレクリエーションを楽しみました。種目は、「鬼ごっこ」。小学生と中学生では運動能力、体力が異なりますが、遊びとなると小学生は知恵を働かせ、中学生を手こずらせる様子も見られました。小学生にとってみれば、何でもできる頼りになる中学生と遊べることは、この上ない喜びと楽しさを感じているのではないのでしょうか。中学生のお兄さん、お姉さんの優しさに包まれながら、楽しいひとときを過ごした小学生は、大満足でレクリエーションを終えていました。小学生の相手を全力で、時には手加減しながら遊んでいる中学生のまなざしの優しさが、とても印象的な小中合同レクリエーションでした。今後も児童生徒会の企画・運営のもと、楽しい活動がたくさんできるといいですね。



たまんなっ子じまん

子どもたちが登校すると、自主的に清掃活動を行ったり、国旗・校旗の掲揚をしたりしています。子どもたちの力を伸ばすためには、習慣化するなど継続して取り組むことに加えて、「なぜ、それを行うのか。」という意味づけする必要があります。自分自身の成長につながることで、まわりの人の喜びや負担軽減になることなど、その意味合いはそれぞれの取り組みによって様々であり、複合的な意味をもつものもあります。

玉之浦小中学校の靴箱は、とてもきれいに靴が置かれています。特に、中学生の靴の置き方は大好きです。かかどが揃って、まっすぐにしまわれています。たかが靴の置き方と考えればその意味合いは自身の思いによるものだけかもしれませんが、このような小さなことでも大切に取り組むことができる子どもたちを育てていきたいと感じています。



